

事業所名 座間市立児童発達支援センター サニーキッズ

公表日 2026年 3月 31日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 発達や特性を考慮したクラス分けを行い、適切な部屋の広さ、生活動線の確保に努めています。 建物内の活動部屋（3室）やテラス、その他スペースを有効活用して日課を組み立てる等しています。 クラス内でも、子どもたちの様子（活動内容）や安全面を考慮し、グループ分けして対応する時間等を設けています。 	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスが、建物内の活動部屋や空きスペースを十分に活用できるよう、時間数も含めた割り振りを行うとともに、定期的な振り返りによって見直しを実施していきます。 様々な発達段階／タイプの児を対象としており、動きや体格差に関わらず、安心安全に過ごせるよう環境調整に努めています。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	2	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの出席状況等、全体を鑑みて臨機応変に職員がクラスに入る体制を取っています。 クラス内でグループに分かれて活動するなど、職員の目が届きやすいように工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談や他事業との兼ね合いによる職員の流動的な動きに影響を受けやすいため、フリー職員を配置や事前に調整を行うなど過不足ない人員配置やフォロー体制に努めています。 個別対応を必要とするなど、子どもの状況の変化に対応できるよう特性や発達に応じて多職種で関わる体制の整備や安定したクラス運営が実施できるよう担当職員と定期的な振り返りを行いながらプログラムの見直しを行います。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> 建物内では活動部屋などの表示を子どもたちに分かりやすいマークを使用しています。また移動の順路を同様にし、生活動線がわかりやすいよう工夫しています。 クラス内の掲示物は必要最低限の情報にとどめる等情報の伝達方法の工夫を行うとともに、部屋のレイアウト、一日の流れ、人員配置など取り巻く環境の構造化を意識しています。 療育設備や備品の定期的な点検により安全な環境保持に努めています。 	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 日々の清掃や消毒によって衛生面の管理、子どもたちの怪我防止に努めています。 換気装置や空気清浄機／サーキュレーターを使用し、清潔な環境の保持を行っています。 クールダウン等、個別対応が必要な場合は空き部屋や活動部屋を工夫して使用しています。 	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 事前に予測できる場合には、全体へ個別対応の可能性について共有し、スペースの確保や設定準備を行っている。 できるだけ多目的に使用できるよう、備品の設置などを最小限にとどめる等工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 別室や個別での対応については、部屋やスペース、職員の公平な活用の観点から定期的に妥当性を振り返り、代替案の検討なども含めて適正な実施に努めています。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 各種業務は役割分担され、担当内で振り返りを行い必要に応じて全体周知、共有が図られています。 職員は定期的な面談によって、自らの業務振り返りを行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> センター化から2年半が経過し、徐々に各種業務が安定してきているが、業務量も多く積極的な効率化への取り組みが必要と感じています。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 評価表に加え、年2回実施している家族懇談会において保護者の意見や意向を伺い、事業所の取り組みに反映しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 記録の共有を行うとともに、優先度の高い事項については直接支援職員による検討の機会を設けるよう努めています。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 各種会議の設定により、情報の共有や意見交換の場が設けられ、業務改善につなげています。 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間の制約などから、非常勤など立場の異なる職員も含めた情報共有や意見交換を行う難しがあり、実施可能な方法を模索していきます。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価受審にあたり、多くの職員が参加して事業所自己評価を行い各種整備に取り組みました。 	

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		・本体施設で実施される研修へ積極的に参加するとともに、事業特性に合わせた事業所独自の勉強会を計画的に実施し、職員の資質向上に取り組みました。	・法廷研修も含め、実施すべき研修や訓練が多く、計画的に実施していきます。 ・年次の浅い職員に向けては実践場面を通じたフォロー体制を構築し、スキルアップに努めています。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		・ホームページへ掲載するとともに、事業所内へ掲示し、周知を図っています。	・公表された支援プログラムについて職員が共通の理解をもって、質の高い支援を提供できるよう努めています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		・発達や行動特性の視点から複数職員／異なる職種によるアセスメントを行い、子どもの現状を保護者と共有したうえで個別支援計画を作成しています。	・適切なアセスメント、客観的な分析により、必要な個別支援計画を作成していけるよう、職員ひとり一人のスキルアップに努めています。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		・個別支援計画作成段階から、児童発達支援管理責任者とクラス職員が共有や意見交換の場を設けるなど現状に即した計画作成に努めています。	・勤務時間等の制約から支援検討の場に出席できない職員もいるため、子どもに関わる職員が支援に関して共有、意見交換できるあり方の模索をしています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		・個別支援検討会議にはできる限り、子どもに関わる職員が参加できるよう努めています。	・日々の反省会やクラス会議等の機会を通じて、児の現状や支援の進捗状況を確認し、変化に応じた柔軟な対応に努めています。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12		・発達や行動特性に関する事業所独自のアセスメントシートを用いて、日々の行動観察のなかで現状を把握を行っています。 ・計画的に発達検査実施することを推奨し、検査結果を客観的な材として保護者と共有しています。	・日々の行動観察と発達検査等の客観的な材を用いて、子どもの現状を保護者と丁寧に確認していけるよう努めています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		・職員/職種間で役割分担をし、家族支援・地域支援についても段階的な支援が行える体制を整備しています	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	1	・専門職の助言やクラス職員による日々の振り返りを材に、現状に合わせたプログラム立案に努めています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		・活動部屋のレイアウトを計画的に変更し、様々な活動への取り組みを促せるよう工夫しています。 ・子どもに促したい動きや取り組みを想定し、新規の粗大遊具や教材の購入を行いました。 ・月案上の表記は同様でも、子どもの変化（成長）に合わせて、段階的な活動展開／課題設定の工夫をしています。	・事業所内にある教材が十分に活用できるよう、勉強会を行うなど、活動（課題）提供の充実に努めています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12		・5領域の視点にそって個別支援計画を作成し、集団活動の中で個々に合わせた課題提供の工夫を行っています。	・必要に応じて、専門職や中核職員による個別の支援が実施できるよう体制整備に取り組みます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12			・送迎バス添乗等により十分な時間の確保が困難な状況にあり、職員日課を考慮した事前打ち合わせや情報共有の適切な実施について努めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12		・日々支援の振り返りを行い、子どもの様子の変化に応じた支援を統一して提供できるよう努めています。	・送迎バス添乗や他事業の対応等により十分な時間の確保が困難な状況にあり、職員日課を考慮した、振り返りや情報共有の適切な実施に努めます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		・適切な記録によって経過の確認／支援の検証、多職種間での情報共有が図れるようマニュアルを策定し取り組んでいます。	・記録の目的を見直し、必要な内容が過不足なく記録できるよう努めます
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		・併行通園する子どもについては、併用先（集団）での過ごしを踏まえて、計画の見直しを行っています。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		・可能な限り、児童発達支援管理責任者が出席できるようにしています。		
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12		・関係する協議会や会議等へ積極的に参加し、必要に応じて連携を図れるよう、顔の見える関係づくりに努めています。		
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・個別支援計画作成時期に併用先へ聞き取りを行い、集団での過ごしを踏まえた支援に努めています。		
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・就園／就学にあたっては移行先への引継ぎを行うとともに、保護者によるサポートブックの作成を支援しています。		
	(28～30は、センターのみ回答)			・市内サービス事業所が集まる会議の事務局を務め、連携・地域全体の質向上に努めています。	・合同行事、研修の実施を企画し、他事業所との連携を深め、地域全体の質の向上に努めます。	

関係機関や保護者との連携	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	11	1			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	12		・年次に合わせた研修内容／機会の提供を計画的に実施しています。 ・在籍する専門職が実際の支援に関わり、定期的にクラス職員へフィードバックを行っています。	・内部／外部の研修について、年次等を考慮し計画的に受講できるよう努めます。 ・実際の支援を通じて職員が学びを深めていけるよう、在籍する専門職との連携について引き続き整備していきます。	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	11	1		・関係する会議へは積極的に職員を派遣するよう努めています。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12			・併行通園をしない日々通園の子どもを対象として、近隣保育園への外出を実施しています。(1～2回程度/月)	・訪問先の保育園と目的を共有し、適切な活動参加の機会につなげていけるよう努めます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12			・ミラー観察時には子どもの現状や家庭／併行通園先での様子について共有し、共通理解がもてるよう努めています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	1		・年間スケジュールにのっとり、専門職によるお話しタイムを実施しました。実施に際しては複数日程を設ける等、参加しやすい環境設定を工夫しました。	・外国籍やグループ支援の場への参加が難しい家庭への対応が十分ではないため、情報提供の在り方について検討を行います。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12			・必要に応じて、家族懇談会等の機会に説明を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12			・個別支援計画作成に際しては面談機会を設け、現状の共有、次目標など意向の確認をしています。 ・ミラー観察などの機会を利用し、児童発達支援管理責任者が家庭意向の確認等を行っています。	・子どもの意思決定支援について、あり方を検討し実践に向けた取り組みを模索します。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12			・ミラー観察や個別支援計画の面談等の機会を利用しながら、最近のお子さんの様子等を共有し、必要な対応等について相談を行っています。 ・必要に応じて適切な情報提供が行えるよう、相談内容により、他職種が連携して支援を行う体制整備に取り組んでいます	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	1		・就園や就学などライフステージに伴う情報提供の場では、先輩保護者の参加や進路別の開催など保護者同士が情報交換できる環境設定をしました。 ・土曜に開催する行事(ハロウィン・お楽しみ)では、「兄弟参加／一緒に楽しめるプログラムの工夫」を一つの要素として検討し、企画運営しました。	・外国籍や交流の場への参加が難しい家庭に対する情報提供の在り方について検討を行います。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12			・相談の流れに関するマニュアルを作成し、適切な対応が図れるよう努めています。	・保護者が相談の申し入れをしやすいよう、窓口や流れの明確化に努めます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12			・毎月事業所お便りとクラス月案を配布し、予定の周知を行っています ・日常の様子を写真撮影し、親子行事の際に掲示を行いました。	・セキュリティなどへの懸念から、SNS等を積極的に活用していないが、ご家庭ニーズと業務効率化の観点からICT有効活用について検討していきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			・事業所内で共有されている「プライバシー保護」に関するマニュアルに保護者からの聞き取りを行う際の留意事項等を含めて記載し、職員への注意喚起を行っています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			・児の特性等に合わせて、視覚提示やジェスチャーを用いて意思疎通を図れるよう配慮、支援しています。 ・必要に応じて面談等に、英語通訳できる職員の配置を行いました。	・日本語以外の言語を使用する家庭、子ども向けの環境が未整備となっています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	6		・本体施設で行われたお祭りに、作品を出展するなど小さいながら地域住民に取り組みを伝える機会となりました。	・センターの役割を知っていただけるよう、地域との関係機関に向けたパンフレット作成に取り組めます。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画にのっとり、各種事故防止／対応マニュアルを整備し、職員へ周知しています。 ・不審者侵入を想定した研修／訓練を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、保護者に向けてマニュアルの周知や訓練への参加要請を行っています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		分離通園開始前に看護師による確認を行っています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	2	保護者を經由して医師の指示を確認し、対応をしています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画にのっとり、各種安全点検や必要な研修／訓練を実施しています。 	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画の作成及び具体的な実施内容について、家族懇談会にて周知を図っています。 	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットについて、毎月の会議で種別や件数を共有し、必要に応じて具体的な取り組み等を挙げて意見交換や周知を図り、再発防止に取り組んでいます。 	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内で勉強会の機会を設け、意識や理解を深める取り組みをしています。 	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・本体施設に設けられた身体拘束適正化委員会に時間を報告し、協議のうえに対応を決定しています。 		